

## 2022年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 120,414 人  
 前年度 90,636 人 前年度比(100) 132.9 % 29,778 人増  
 平成30年4月8日開館以来の延来館者数 644,717 人  
 年間総開館日数 307 日 1日平均利用者数 392.2 人

### 曜日別利用状況

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜・祝日	計
0歳児～小学3年生	6,353	6,513	0	6,374	6,493	14,074	22,384	62,191
小学4年生以上	45	33	0	31	46	187	380	722
保護者等	5,804	5,926	0	5,667	5,835	12,682	20,826	56,740
ボランティア	22	14	0	5	14	66	41	162
見学	78	48	0	41	53	67	109	396
団体	52	0	0	50	86	15	0	203
合計	12,354	12,534	0	12,168	12,527	27,091	43,740	120,414
日数	48	49	0	46	49	50	65	307
1日平均人数	257.4	255.8	0.0	264.5	255.7	541.8	672.9	392.2
利用者構成比	10.3	10.4	0.0	10.1	10.4	22.5	36.3	100.0

### 2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	26	307	
利用者数	0～小3	計	4,814	5,662	4,615	4,371	4,536	5,176	5,725	5,391	3,057	4,742	6,178	7,924	62,191
		1日平均	185.2	209.7	184.6	161.9	174.5	199.1	212.0	215.6	127.4	197.6	0.0	304.8	202.6
	小学4年生以上	計	99	87	55	39	72	56	69	58	20	28	50	89	722
		1日平均	3.8	3.2	2.2	1.4	2.8	2.2	2.6	2.3	0.8	1.2	0.0	3.4	2.4
	保護者等	計	4,419	5,422	4,236	4,012	3,985	4,813	5,229	4,967	2,752	4,355	5,574	6,976	56,740
		1日平均	170.0	200.8	169.4	148.6	153.3	185.1	193.7	198.7	114.7	181.5	0.0	268.3	184.8
	ボランティア	計	10	52	24	13	20	18	13	1	4	2	0	5	162
		1日平均	0.4	1.9	1.0	0.5	0.8	0.7	0.5	0.0	0.2	0.1	0.0	0.2	0.8
	見学	計	16	59	18	41	23	68	49	56	10	6	6	44	396
		1日平均	0.6	2.2	0.7	1.5	0.9	2.6	1.8	2.2	0.4	0.3	0.0	1.7	1.3
	団体	計	0	0	0	0	12	22	89	43	28	9	0	0	203
		1日平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.8	3.3	1.7	1.2	0.4	0.0	0.0	0.7
	合計	計	9,358	11,282	8,948	8,476	8,648	10,153	11,174	10,516	5,871	9,142	11,808	15,038	120,414
		1日平均	359.9	417.9	357.9	313.9	332.6	390.5	413.9	420.6	244.6	380.9	492.0	578.4	392.2

新規登録人数 1日平均 / 11.5人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録人数	291	349	318	242	239	323	350	311	126	240	338	414	3,541

利用者登録人数 (2022/4/1～2023/3/31)

登録地区	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録人数	941	819	289	185	447	43	33	284	446	54	3,541
割合	26.6%	23.1%	8.2%	5.2%	12.6%	1.2%	0.9%	8.0%	12.6%	1.5%	100.0%

## 年間運営総括及び来期への課題

・新型コロナウイルス感染症の状況が少しずつ落ち着き、施設の感染対策も徐々に緩和しながら対応をした。随時行政に対応を確認し、他施設とも連携して足並みをそろえ、状況にあわせた運営を行った。利用状況はコロナ禍前の賑わいに戻っている。秋頃や2月、3月は、1か月の利用が1万人を超えた。週末になると1日の利用が1,000人を超えた日もあった。低学年ひろばでは、混雑状況をみて安全のために入場ストップをして対応を続けている。来期も引き続き安全・安心第一の運営を続けていく。

・コロナ禍で始めたリモート配信のイベント「おうちでい〜てらす」を今期も継続して年4回行った。毎回数組の参加があり、なかにはいつも遊びに来ている親子の姿もあった。今後はよりイベントの認知度を広めていくことや参加しやすい工夫をしていくことが課題である。運営委員会では、委員の方から、リモートのイベントを録画して後日利用者に配信することも出来るとアドバイスを頂いた。来期に向けて準備をし、取り組みを発展させていきたい。また、利用者の中には、インスタグラムを見て情報収集している保護者も多くいる。インスタグラムを活用し、イベントの情報のみならず、ふれあい遊びなどの発信にも力を入れていきたい。

・寺山こい来いフェスタも、今期はコロナ禍前と同じ規模で開催された。その他、寺山公園でのチューリップの植え付け体験なども行われた。例年に続き、行政や地域の方達と連携して取り組むことが出来た。また、新潟医療生協から声掛けを頂き、秋には「健康ふれあい祭り」が寺山公園で初めて開催され、い〜てらすも実行委員のメンバーとして携わった。子育てを含め地域住民の多世代交流の機会を、他団体や地域の方と協力してつくりあげることが出来た点に大きな意味があったと感じている。来期も同様に、寺山公園でのイベントが予定されている。地域の交流の拠点として、施設の役割や出来ることを考え意識して取り組んでいきたい。

・施設主催の夏祭りや寺山こどもまつり、ふゆまつりも例年同様に開催した。イベントにはこどもボランティアの他、新潟県立大学の学生、民生委員の方々にも協力を頂いた。来期はお祭りの他にも、日々の中で公園を活用したイベントを行っていきたい。また、水遊びや0円バザーなど、コロナ禍で制限されていたことも、状況をみながら活動を広げていきたいと思う。

・外部講師によるイベントはほぼ例年同様の内容で開催した。おしゃべりテラスは引き続き母親2名にファシリテーターとして携わって頂いている。また、地域の助産師にも月1回来て頂いている。どちらの会もリピーターの参加が多くある。昨年度、育児の不安や疲れから涙を流しながら参加していた母親は、以前よりも明るい表情で、今も時々おしゃべりテラスをめぐって遊びに来ている。母親同士、困り感や悩みを共感しあいながら、子ども達の成長と一緒に喜びあえる場となっていることを実感している。ファシリテーターの母親や助産師の方とともに親子の様子を見守り、支え合っていることを嬉しく思う。今後も親子の居場所の一つとなれるように継続して開催していく。

・ベビーマッサージや、あんよのまへのいないいないばあなど、乳児向けのイベントにも父親の参加が少しずつ増えている。お便りに「父親の参加も可」と記したことが効果的だったと思われる。施設では、普段から父親や祖父母の姿も多く見られ、「広々としていて遊びに来やすい」という声も聞く。施設の特徴として意識し、家族向けのイベントも今まで同様、力を入れていきたい。

・一時預かりでは、双子や支援を要する子の利用の増加が感じられた。子ども達や保護者の様子などから、家庭での困り感が感じられるケースも少なくない。保育者同士、情報共有しながら、日々子ども達や保護者と関わっている。園に預けたくても土曜日は受け入れてもらえず、ここの一時預かりを利用したという家庭などもある。レスパイト保育のもつ役割の大きさを改めて実感している。おしゃべりテラスの参加から、一時預かりの利用へと繋がることも多い。ニーズの大きさを痛感しているが、保育者の確保に限りがあり場合によっては受け入れできないことも現状としてある。他施設を紹介するなど、繋げていくことを意識していきたい。

・今期は指定管理の選定が行われたこともあって、これまでの運営を振り返り、これからの運営を考えていく節目の年でもあった。子育て交流施設の意味や役割を意識して、来期も利用者や地域の方達と力をあわせて、より良い居場所づくりに取り組んでいきたい。また、来期は東区2キロ子育て魅力発信の事業も法人として委託されている。行政、他団体、他施設、そして地域と連携し、子育てにやさしい東区をより盛り上げていきたい。

## 総括・自己評価

・年間で120,414人の利用があった。昨年に比べて3万人近く増加した。感染状況が落ち着いたこともあって、週末の賑わいはコロナ禍以前に戻っている。開館以来の利用総数は60万人を超えた。変わらず多くの利用を頂いている背景には、施設自体の魅力もそうだが、職員の明るくあたたかい雰囲気なども大きく関わっていると思う。平日の午前中や一時預かりは、入園前の子がいる家庭の利用が多く、職員との何気ない会話の中で、母親から育児での困りごとや気になることを相談されることが日常的にある。職員は保護者の話に耳を傾け、ともに悩み、寄り添う姿勢を大切にしている。ひろばでの相談ごとから、おしゃべりテラスや一時預かりを紹介し繋がっていくことも多い。入園が決まった保護者からは「ここがあって本当によかった」という言葉を頂いた。また、一時預かりの常連だった子が、入園してからも「今日はい～てらすの先生に会いにきました」と遊びに来てくれたこともあった。1日何百人という来館があるなか、一人ひとりとの関わりを大切に、話しやすく、あたたかい関係性を築くことが出来ていると実感している。

・年長児や低学年の頃から遊びに来ていた子ども達が4年生になり、こどもボランティアへの登録が一気に増えた。今期だけで20件以上の登録があった。特に春先から夏頃にかけてがピークで、1日5～6人がボランティアのために来館することもあり受け入れ体制の見直しが求められた。ボランティアだよりや、ボランティアカードを新たに作成し、体制を整えた。年度末になっても数人が継続して自発的に来てくれている。利用者の保護者からも「子どもと一緒に遊んでくれて助かった」という声が聞かれている。異年齢の交流の機会としても継続していきたい。

・地域の小中学校の運営協議会に年間を通して出席させて頂いた。学校の様子を共有しあい、教職員や地域の方達と共に子ども達や地域のことを考え話しあう機会にもなった。また、授業の一環として、小学生が「このまちの良いところ」として施設を見学に来てくれたり、中学生が親子向けのイベントを企画してくれたり、小中学校との交流がより深まった1年だった。寺山公園では小中学生の利用が多くある。なかには、夜遅くまで公園にいたり、駐車場でスケートボードに乗っていたり、気になる子ども達の姿もある。地域の中の居場所として、学校や地域と連携しながら子ども達や子育て家庭を一緒に見守り支え合っていく必要性を感じている。

・来期でい～てらすは開設5周年を迎える。5周年のお祝いに、これまで施設内で聞こえた子ども達と保護者の会話やつぶやきをまとめた記念誌を職員で製作し、自主事業として販売した。また、親子と一緒にちぎり絵で「おめでとう」の文字を作り、5周年を盛り上げていく活動も行っている。また今期は指定管理の選定が行われた年でもあり、これまでの運営を改めて振り返る年にもなった。6年目のい～てらすも、一人ひとりとの出会いを大切に、ともに考え寄り添う関わりを運営の基盤の一つとして大事にしていきたいと思う。そして、親子や地域の方達と力を合わせて、引き続き子育てや地域の居場所づくりに取り組んでいきたい。